

# 「意見ないは不可解」

## 県森林審議会で出席委員

問題 霊園 野 奏

奏野市沢沢の八国見山南面区域に計画される大規模な霊園開発を巡り、今年2月の県森林審議会で県が自然保護グループなどの反対を知りながら「特段の意見がない」との文書を配布していた問題で、出席委員から「意見がないというのは不可解」との声が上がっていたことが分かった。

た。住民グループ「沢沢丘陵を考える会」(日置乃武子代表)の情報公開請求で開示された議事録から明らかになった。

審議会は、森林法に基づき林地開発許可の可否の諮問を受けて開かれた。議事録によると、この委員は県水源地環境保全課による配布資料の説明の後、「地域社会との合意形成が必要というところに、特段の意見がないという回答をいただいている点がとても不可解」と発言。さらに「地域の人はこうなんだという詳細を知りたい」と述べた。

審議会長で議長を務める宮林茂幸・東京農大教授が回答を促したところ、同課の担当者

は、市が周辺の3自治会を対象に開いた事業計画の説明会について「二つの自治会からは特段の意見はなかった。残る一つの自治会から挙げられた要望については、事業者が全面的にのむ形で協議が整ったと聞いている」とだけ説明。地元や県内の自然保護団体から反対が起きていることは言及しなかった。議長もここで質問を打ち切った。

八国見山の霊園開発を巡っては、2012年8月に約6000人の反対署名が市に提出され、同10月の公聴会では10人の公述人全員

が反対意見を述べた。市議会には反対陳情が出され、県にも霊園開発に伴う要求書が提出されている。

【高橋和夫】